

研究通信

№ 25

1957年11月刊

村落社会研究会会報

大阪市住吉区
大阪市大社会学
研究室 内

第五回大会を迎えて

年一回の本会の大会も五回目を迎え、来る十一月二三、四日に開催することになりました。本年度大会は、関係学会と切離して単独で行うこと。会場を二日に延長し、自由課題報告とシムポジウムをこまらめると。録音機で録音し、自由課題報告とシムポジウムをした。本会の設立の趣旨が自由な研究者の交流におかれてゐることを思い出すと、今年度の大会あたりを契機として清新な発展の方向をより一層強くおし進めたいものだと感じます。さいわい二日におきたる報告者も会員のみに超過するほど集まり、会場その他も関係者の尽力で見通しがつきました。後は活潑な報告と討議が成果を納めることを願うのみです。遠方からも前年度多数の出席者の通知が集まつておりますが、故郷など都合してわざわざ参加される甲斐がある様子を、よだん通信紙上では尽くせない意向をこの機会に隔意なく語り合つて下さい。

大会の日程は次の通りです。

第五回 大会 次第

第一日 十一月二十三日(土) 於東京大学法文館二〇号館 三六

香教室

研究発表 午前九時三〇分—午後五時三〇分

閉会 本大会 喜多野清一

1. 資本主義の発達と農家労働力 森村 啓(通産省)

2. 村落社会における「ローリング」の類型について 田野崎昭夫(東北大学) 中野 卓(東京教育大学)

3. 一定置網漁村とその構造 (昼食休憩) 中野 卓(東京教育大学)

4. 日本農村の集団異質構造——宝塚市農村調査を中心に 余田博通(関西学院大学) して

5. 封鎖村の崩壊過程——宿州諏訪今井村について 矢木明夫(東北大学) (休 憩)

6. 農家の兼業化について 常盤政治(慶応大学) 川端淳二(愛知大学)

7. 農民の価値観 報告時間一人当り三〇分、質疑討論一五分、昼食休憩二時間 第二日 十一月二十四日(日) 於学士会館講堂(東大赤門前)

1. シムポジウム「戦後農村の交託」午前九時半—午後四時 2. 家族の部 司会 有賀左衛門 竹内利美(東北大学)

報告(問題提起) 小山 隆(拓立大学) (昼食休憩) 2. 村落の部 司会 中村吉治 濱武直介(東北大学)

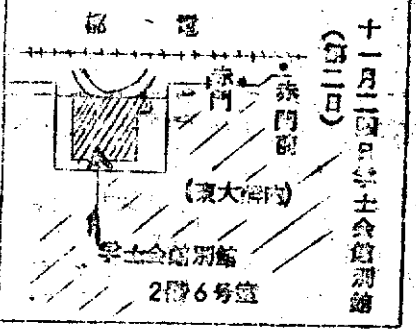
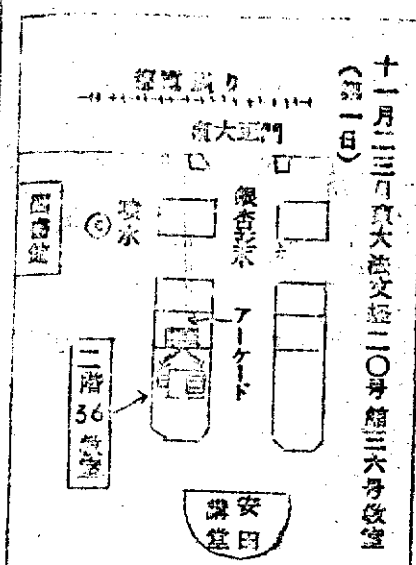
報告(問題提起) 安孫子謙(東北大学) 後藤和夫(愛知学芸大学) (休 憩)

3. 村落討論 司会 第一日、第二日の司会者全員 4. 各部門毎に、報告一人四〇分、質疑一〇分討論合せて六〇分 5. 昼食及び懇親会 午後五時—午後七時

大会参加費五〇円 懇親会費二五〇円 報告日程がつまっておりますから参加者は時間厳守をお願いします

本年度は多数会員の参加が、例年より問題点を多くつてすが、新角の調査結果もあらしめるより、会費の執行について努力をお願いいたします。今年はじめの試みであるシムボジウムは三部におけ、まず東大の部、村野の部でそれぞれ懇話会に因り懇話会の意味で報告があります。これに対し、若干質疑の後で一般討論を行います。この一般討論は前の討論の集約並びに、第一、第二、第三、第四、第五の各報告を含めての大会議場の集約のために行うもので、特に活発な自由討論を希望しております。尚委員より報告(問題提起)等に対してあらかじめ意見を述べられるよう、各討論項目についての意見は、なるべく早く、事務局宛に連絡して頂ければ幸いです。御座るのがある方はどしどしお寄せ下さい。

(会場情報) (事務局 事務局)



のは要成。新しい性格の研究会としての発展を期待する。

○中村治兵衛(福岡市) 小生は目下中園の家業村集と日本のそれらとの異同を考えています。比較人類学的方法というか、そうした方法論についての理論的研究を最近痛感しています。

○松井徳太郎(東京都) 「年報」中学界動向は、極めて興味深い。「兵衛学」を入れて頂いたら存難いと思えます。

○吉沢四郎(東京都) 二二二号の会員動向は大変興味深く読みました。是非来年もやってみたいと思えます。

○藤田治郎 第二四号の藤岡氏の提案は成す。第一の点私共山の小果にいますと仲間も少いのですが他地区の協同研究に刺激されるでしょう。第二の点福岡部で御苦労でもお願します。第三の点も何とかしたいものです。

○中田実(愛知県川市) 研究通信二四号の藤岡先生の三つの提案全く賛成です。特に第三の点地方にいるを痛感するので実現を切望します。

○前山俊太郎(長野県豊後村) 藤岡清英氏の提案になる雑誌出版の早い実現を希望します。予約を取つたらよいと思えます。

○秀村道三(福岡市) 研究通信の藤岡提案！通案作成は大賛成。私たち若い研究者が大賛助かります。

○森村勝(東京都) 社会調査も必要だが歴史的分析(比較経済史的分析も含めて)も必要。中園とか高橋とかの概念規定も切望。

○藤岡清英(福岡市) 小生は目下中園の家業村集と日本のそれらとの異同を考えています。比較人類学的方法というか、そうした方法論についての理論的研究を最近痛感しています。